

## 4 長雨対策

臨界温度は、気象条件の作用を受けて大きく変化する。特に長雨の場合は湿度が高くなり、畜舎環境は悪化し、生産効率は低下する。肉用牛で影響を受けやすいのは、子牛と肥育牛である。

### (1)子牛

子牛は環境適応能力が低いいため畜舎内環境悪化の影響を受け易く、特に下痢等の疾病の発生が懸念される。敷料の取り換えを頻繁に行い、牛床を清潔に保つ努力が必要である。下痢等の多発する日齢は生後60日令頃までが多いのでその日齢の子牛は、常に糞の状態を観察し、発生したら早急に、適切な治療を受けることが大切である。湿度が高いと、給与した飼料が変敗しやすくなる。1日で採食する量の給与に留め、残飼は取り除く等の下痢防止策が必要である。

### (2)肥育牛

肥育牛は多量の濃厚飼料を給与しているため熟産量が多い。又、一般に密飼いされるため、畜舎環境が悪化しやすい。環境が悪化すると牛は食欲が減退し、飼料摂取量が低下し、増体量が低下する。敷料の取り換えを頻繁に行うなど、補給量を増す等の対策が必要である。飼槽、飲水施設等を清潔に保ち、飼料摂取量の低下を防ぐ事も大切である。

### (3)濃厚飼料の変敗対策

肥育経営では多量の濃厚飼料を使用するため、一般に一定期間量の飼料をストックする事になる。湿度が高くなると変敗しやすくなる。変敗した飼料を給与すると下痢鼓脹症等の発生源ともなるので注意が必要である。ストック量を減らす等の対策を取るべきである。

## 5 災害の調査

### (1)被害状況の調査項目

肉用牛における気象災害の被害状況ならびに調査項目等については、確立されたものは見当たらないが、牛の発育・増体状況、繁殖成績、疾病の発生状況などが考えられる。